

(様式4)

令和5年度 自己評価結果報告書

学校名 湯梨浜町立泊小学校

校長名 岡本 律子 印

1. 学校の教育目標

豊かな心と確かな学力を持ち、ふるさとを誇りに思い、未来を切り拓き、たくましく生きる児童の育成

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

別紙参照

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由
(1) わかる授業の創造と確かな学力の育成	B	研究推進の成果を日々の授業に生かすことができた。 ICTの積極的活用により、児童の学び方が多様化した。
(2) 豊かな心の育成	B	仲間づくりにより全体的に落ち着いた学校生活を送った。 生徒指導上の問題をチームで解決することができた。
(3) 健やかな体の育成	A	体育学習や学校行事等の取組により体力が向上している。 生活指導等により生活習慣の定着、意識化が進んだ。
(4) ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり	A	地域に触れる、人を招くなどの学習を積極的に行った。 児童は故郷に関する学習を楽しんでいる。(肯定的評価 98%)

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	評価項目4つのうちA評価が2項目ある。ICTの積極的な活用が学習に生かされている。昨年、学力に課題のあった学年の学力検査結果も向上している。課題は残されているが、児童は落ち着いて学校生活を送っており、保護者の評価も全体的に肯定的である。

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
確かな学力の育成	ICTを活用した多様な学び方を目指した研究を進めることにより、教職員の指導力の向上と児童の学力、学習意欲の向上を目指す。
児童の人権意識の向上	職員間で生徒指導上の情報共有を行うとともに、日頃から児童のアセスメントの実践と対応及び人権学習の計画的実施と評価を確実に進める。
ふるさとキャリア教育の推進	ふるさとに関する学習において、児童が地域のために何ができるかという意識を持って学習することをゴールにした学習(単元)の工夫

(1) わかる授業の創造と確かな学力の育成

○校内授業研究を充実させる。

- ・課題提示の仕方と、スモールステップを意識し、成功体験ができる学習過程の工夫をする。
- ・課題解決につながる話し合いができるように工夫したり、話し合いの型の定着を図ったりする。
- ・学習規律の定着を図り、分かりやすい指示を意識した授業づくりを行う。

○「家庭学習の手引き」や「家庭学習がんばりカード」を活用し、家庭学習の習慣化・自主学習の充実を図る。

○読書の習慣化を進め、授業に関する図書活用を工夫するなど、図書館利用を推進する。

○ICTを活用した教育を推進する。

(2) 豊かな心の育成

○仲間づくりを中核にした人権教育を推進する。身近な課題に気づかせ、解決に向けた話し合い活動に取り組む。

○児童理解を進め、特別支援教育に関する研修の推進を図る。

○全校集会（しおかぜ集会等）の取り組みや縦割り班活動をより充実させる。

○いじめの早期発見・早期対応を目指し、「報・連・相」を徹底し、組織的に対応する。

○より良い言葉遣いのあり方について重点的に指導を進める。

(3) 健やかな体の育成

○体力づくりを意識した体育学習を行う。児童が自分の目標や体力づくり意識を持てる体育学習を行う。

○体力づくり意欲を高めるためマラソン大会、縄跳び大会などに取り組む。

○メディアとのよりよい関わりを目指し、家庭と協力して、学習・研修を進める。

○食育指導・保健指導を行い、健康な体づくりに関心を持たせるとともに、児童の基本的な生活習慣に関する意識の向上を図る。

○学校保健委員会を通して、保護者と課題を共有し改善対策に取り組む。

(4) ふるさとを誇りに思う児童の育成と開かれた学校づくり

○地域教材・人材等を生かした総合的な学習の時間の推進を図る。

○特色ある教育活動とふるさと学習の充実を図り、各活動での双方向のメッセージ交流を工夫し、家庭・地域と共通の目標に向かって取り組みを進める。

○学校だより・学級だよりを創意工夫し、子どもの活動の様子・子どものよさを積極的に情報発信する。

○ホームページを活用し、旬な情報を発信する。